

（別添 2）消費者庁が行った遊戯施設を対象としたアンケート調査

（1）調査概要

遊戯施設におけるトランポリンの利用に関するルールや施設管理状況などについて把握するため、全国の遊戯施設を対象としたアンケート調査を実施しました。

実施期間：令和 2 年 9 月 8 日～18 日

集計対象：体操教室を除き、トランポリンで遊ぶことを主たる目的としている
全国 28 の遊戯施設¹

（2）調査結果

1）設置されているトランポリンについて

国際体操連盟（FIG）又は日本体操協会（JGA）オフィシャル認定シール²が添付されている、又は同様の性能を持つトランポリン（以下「競技用トランポリン」という。）が 1 台以上設置されていたのは、半数の 14 施設でした。

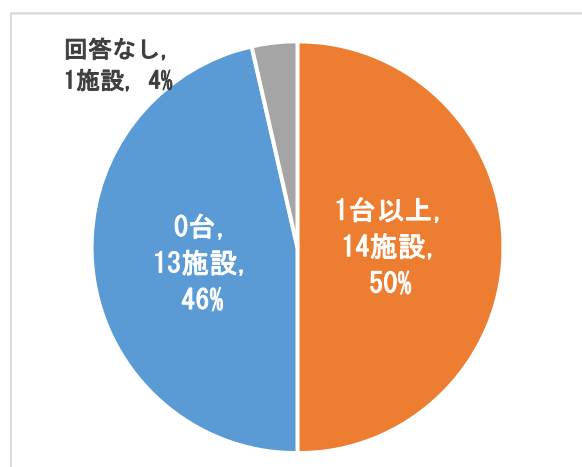


図 1 競技用トランポリンの設置台数

¹ 調査対象の選定方法：複数のインターネット検索エンジンにて条件を替え検索し、上位 50 件の検索結果のうち複数店舗を運営していることが確認できた施設、又は複数回検索結果として表示された施設。17 事業者から、合計 31 施設の回答がありましたが、3 施設は幼児向けの施設であったため、集計対象からは除外しました。

² 日本体操協会「器械・器具検定規程」第 2 条により「(1) オフィシャル 1 検定品(国際体操連盟(以下、「FIG」という)規格準拠・公式競技会用)(2) オフィシャル 2 検定品(国内規格・トレーニング規格・ジュニア規格)」とされています。

その他のトランポリン（以下「一般向けのトランポリン」という。）の設置台数は、21 台以上が 11 施設（41%）、6～20 台が 8 施設、5 台以下が 6 施設でした。

また、一般向けのトランポリンは設置せず、競技用トランポリンのみを設置しているところも 3 施設ありました。

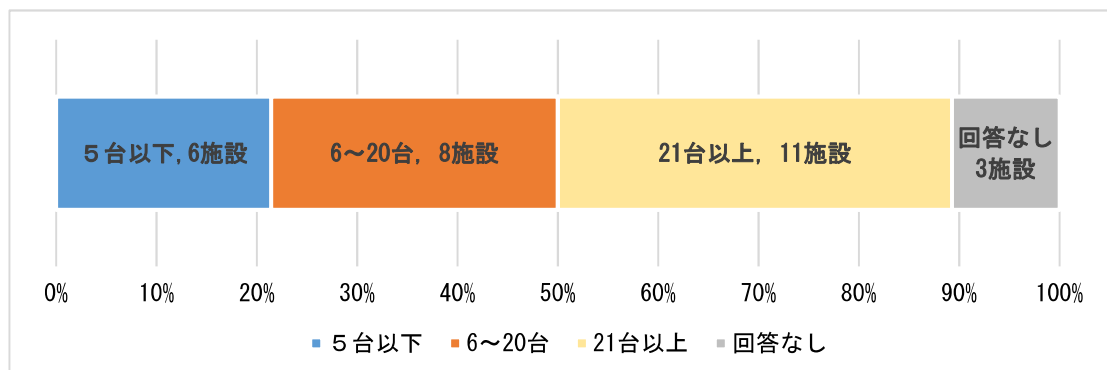


図 2 一般向けのトランポリンの設置台数別施設数及び割合

トランポリンの設置環境については、四方にマットを配置していると回答があったのは 20 施設、保護ネットを設置していると回答があったのは 20 施設でした。いずれかが必ず設置されており、どちらも置いていない施設はありませんでした。その他、必要箇所にマット・ネットを配置している等の回答が得られました。

2) 施設について

年間利用者数については、以下のとおりでした。

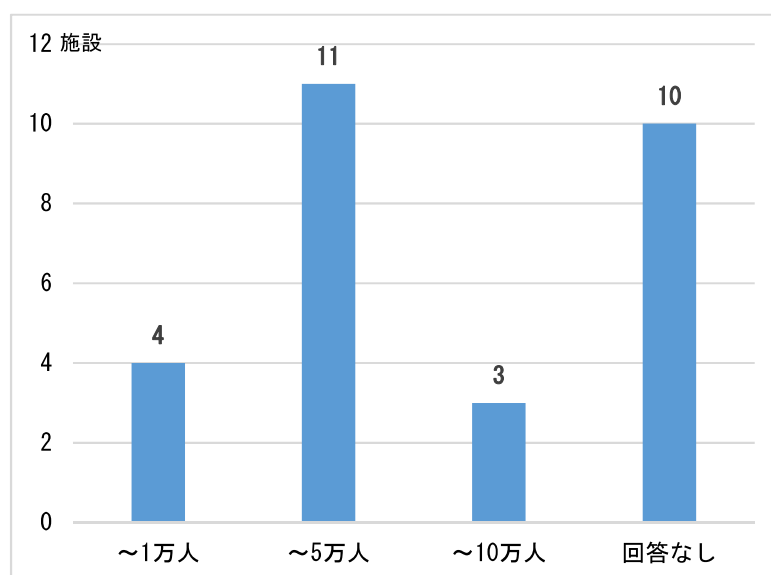


図 3 年間利用者数別施設数

3) 利用者の制限について

①年齢制限、子どもの利用条件

年齢に何らかの制限を設けているのは 17 施設、制限なしは 11 施設でした。利用条件に未就学児は保護者同伴を必須としているとの回答が多く見られました。また、身長と体重で制限をしている施設もありました。

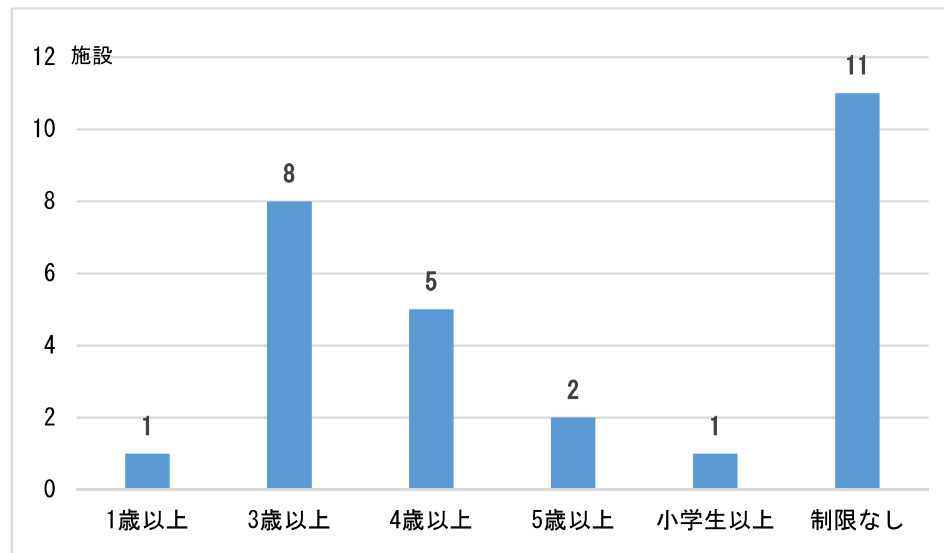


図4 子どもの年齢制限実施施設数

②禁止事項について

宙返りを全面的に禁止していたのは 12 施設で、特定のエリア内など条件を付けて宙返り可としている施設もありました。言及のない 5 施設は、競技用トランポリンが設置されていませんでした。高く跳躍できる競技用トランポリンが導入されている施設では、「未経験者の宙返り禁止」又は「スキル不足の利用者に難度の高い技の練習を禁止する」等の何らかの措置が採られていました。そのほか、多くの施設で「飲酒をしてからの来店、酒気を帯びての入場」、「アクセサリの装着」等について禁止されていました。

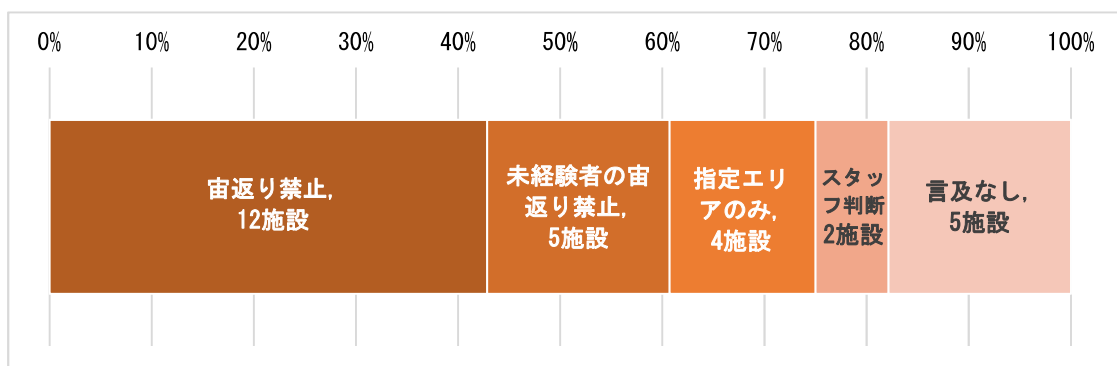


図5 「宙返り」に関する制限条件

③利用者への禁止事項の伝達方法について

全ての施設で、何らかの方法で利用者に禁止事項を伝えていました（図6）（複数回答）。ウェブページ上で公開している、との回答が最も多く23施設、書面で確認後署名、との回答が17施設でした。そのほか、映像の視聴をお願いしているとした施設もありました。

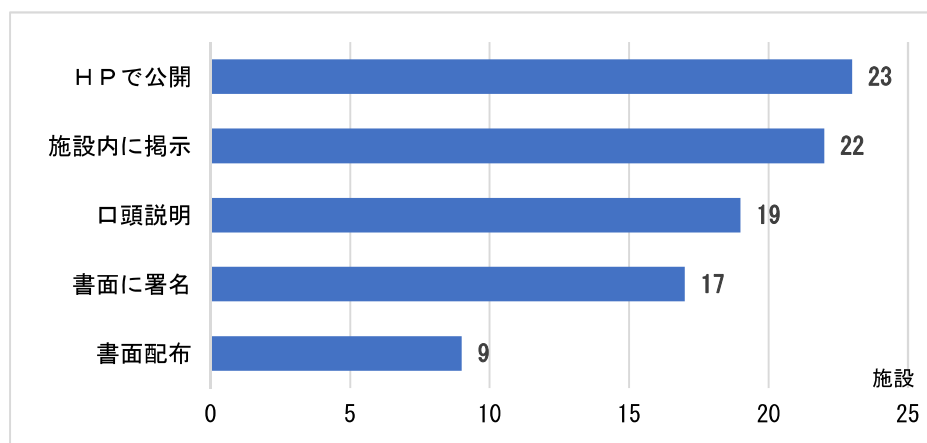


図6 禁止事項の伝達方法（複数回答）

④トランポリン1台当たりの同時利用人数制限について

トランポリン1台に対して同時に利用できる人数は、23施設で1人のみとしていましたが、2人や3人までと回答した施設が5施設ありました。複数人が可能と回答した施設はいずれも、家族・友人との利用、合計体重などの条件を満たす場合のみ、同時利用が可能としていました。

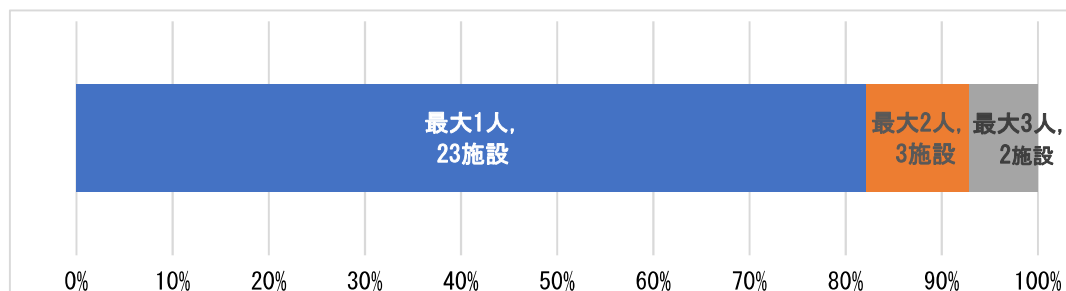


図7 同時に利用できる人数の制限

⑤準備運動について

利用者への準備運動を実施させている、と回答したのは5施設のみでした。

4) 監視・指導の状況について

①監視員の人数について

「職員が監視又は補助を行っている」と回答したのは24施設で、1人の担当する台数は1台以下と回答したのは7施設、2～10台との回答は6施設、11台以上と回答したのは7施設、回答なしは2施設でした。

②普及指導員資格³の有無について

「トランポリンの指導員資格を持つ者が常駐している」と回答したのは7施設、「定期的にいるが常駐はしていない」と回答したのは3施設、「いない」と回答したのは18施設でした。

③技術指導の有無について

「技術指導を行っている」と回答したのは23施設、「していない」と回答したのは3施設、「回答なし」が2施設でした。

④高難易度の技の制限について

スキル不足の利用者に、「難易度の高い技の練習を禁止している」と回答したのは17施設、「一部禁止している」と回答したのは8施設、「禁止していない」と回答したのは3施設でした。

5) 過去5年間の事故の発生状況について

施設により、開業からの年数が異なり、未回答の施設を含みますが、回答があった全ての施設で事故が発生していました。脱臼は103件、骨折は63件発生していました。なお、開業からの年数が長い施設では、骨折が20件以上発生している例も見られました。切傷・裂傷は53件、挫傷・打撲傷は45件発生していました（図8）（複数回答）。各施設において、ルールが設定され、監視員がいたとしても、事故は発生しています。

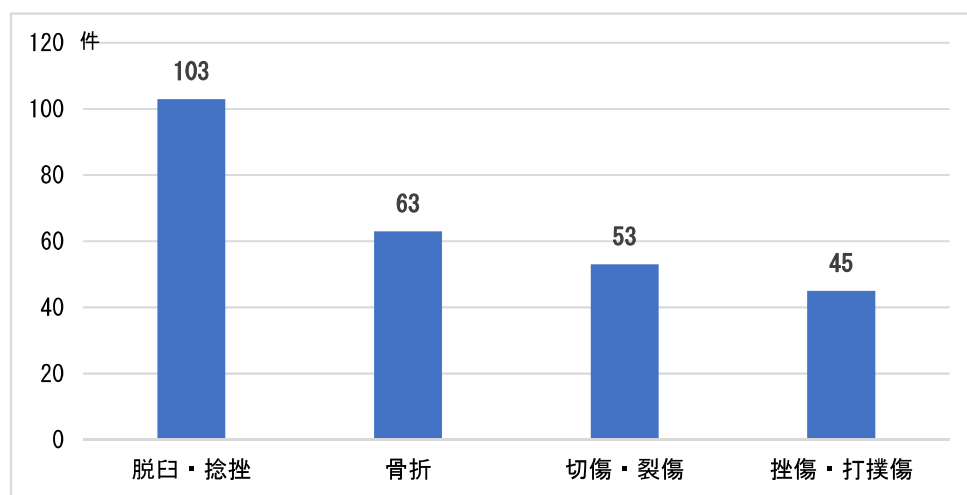


図8 過去5年間の事故の発生状況（複数回答）

³ 普及指導員は、競技普及とは別に、トランポリン運動の普及・指導を目的に養成し所定の手続を経て公益財団法人日本体操協会が認定するものです。（公財）日本体操協会制定のトランポリン段階練習表の30番までの種目が指導範囲とされています。

6) 点検の実施について

①点検頻度について

日に1回以上点検を行っている施設が多く見られましたが、点検を行っていない施設もありました(図9)。また、メーカー等に点検を依頼するのは「不具合を把握したとき」と回答した施設が最も多く、19施設でした。定期的に点検を依頼している施設は2施設、依頼したことがない施設が7施設ありました。

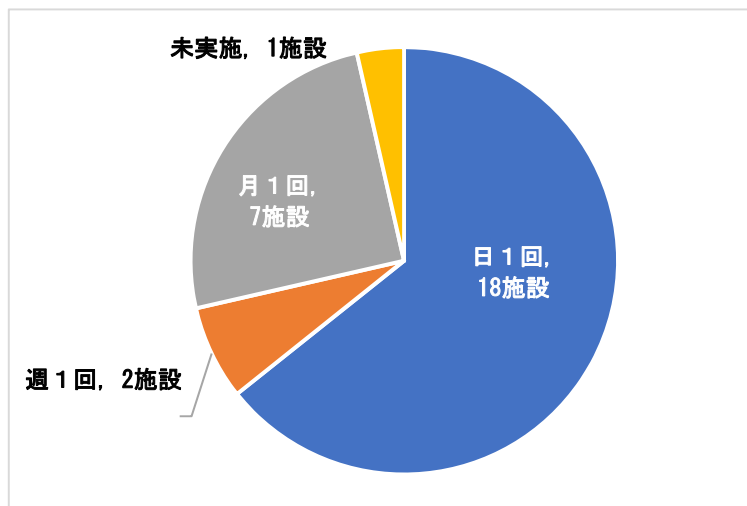


図9 点検の頻度別施設数

②部品の交換実績について

トランポリンのベッドやスプリング、ゴムケーブル等は消耗品で、使用期間、頻度によっても交換に必要な期間は異なると考えられますが、交換実績があったのは9施設のみでした。